

中国語のストレス (重音) と その教学方法について

樋 山 健 介

目 次

はじめに

(一) 中国語のストレスについて

(二) 中国語の語句ストレス

(A) 語尾強調型

1. ストレスの特徴と表記方法
2. 三音節の語句
3. 四音節の語句
4. 二音節の語句

(B) 語頭強調型

1. ストレスの特徴と表記方法
2. 二音節の語句
3. 三音節の語句
4. 四音節の語句

(三) 中国語の文ストレス

(A) 焦 点

1. 焦点と疑問代名詞を使った疑問文
2. 焦点と目的語
3. 焦点と修飾語
4. 焦点と疑問助詞「吗」を使った疑問文

(B) 対 比

おわりに

はじめに

中国語のストレス（重音）をどのように教えるのかということは、中国語の音声教育の中でも重要な位置を占めるはずである。しかし、現在の中国語の音声教育の中では、音韻や声調（軽声も含む）の教育は行われてはいるもののストレス教育についてはほとんど取り上げられていないのが現状である。

日本ではここ毎年かなりの種類の中国語初級用教科書が新に出版されているが、ストレス教育について取り上げているものは全くと言ってよいほど無い。一方、中国でも、筆者の調べた限りでは北京語言学院で出版された『实用汉语课本』と『初级汉语课本』の二種類に限られている。

これは中国語のストレスに関する研究がまだ不十分であることにその主要原因が求められるが、教育内容から省略してよいという理由にはならない。中国語のストレス教育を省略するというのは、アクセント教育を軽視して日本語や英語の音声教育が行われるのと通じるところがある。中国人らしい中国語の発音を教育の目標とするかぎり、ストレス教育は避けてはならない分野であると考える。

ストレスに関する研究は全く無いわけではない。趙元任氏のストレスに関する考察等は多くの学者の支持を受けているにもかかわらず、教学面では反映されていない。

しかし、これには理由がある。発音教育では、一般的に言って、母音、子音、声調を学び一音節ごとの発音を練習し、その後二音節、三音節の語句へと進んで行く。この場合、音節の長さにかかわらず、各音節を同じ調子でストレスをかけずに発音の練習をするのがごく普通にとられている方法である。そして中国人による録音テープも発音をまねやすいようにゆっくりと一音節、一音節同じ調子で読まれているものが多い。この場合ストレスは無視されているか、意識的に除外されている。発音の練習が一定程度なされると教科書の「课文」の

学習に進む。「课文」の内容は様々であるが、多くの場合一課ごとに新出単語がまとめられ、中国人の発音による録音テープも準備されている。しかし、これらの新出単語のテープを聞いてみると、確かにストレスが入っていることはわかって、必ずしも三音節、四音節の単語が趙元任氏の「普通重音」⁽⁴⁾のようには読まれているとはかぎらない。三音節、四音節の語句の語頭にストレスがかかっているものもあれば、ほとんどストレスのかかっていない場合もある。又、単語表を朗読した場合のストレスのかけ方と「课文」を朗読した場合のストレスのかけ方が異っている場合もある。さらに、一つの「课文」の中で同じ語句のストレスが異っている場合さえある。こういった問題にこれまでのストレス研究は十分に答えることができていないのが現状である。これが多くの教師がストレス教育を避ける大きな理由である。

ストレスに関する体系的な研究が必要とされるわけであるが、教育というのは体系的な研究が完成するまで行わなくてよいというものではない。現実存在するストレスに対してある程度の教育がどうしても必要である。

本稿では、これまでの中国語ストレスの研究をふまえ、中国語ストレスに対する考察を通じて、中国語のストレス、特に語句ストレスと文ストレスを体系化しつつ教学方法として取り上げを試みた。ストレス研究がまだまだ不十分だとはいえ、一定程度の成果を上げているのに、それが教学に反映できないのは、語句ストレスと文ストレスの関係をどのように位置づけるのかという理論が不足しているからだと感じたためである。

筆者がここで試みたストレス教育の体系化も今後の研究の発展により再構築される必要が生じるであろうが、教学に一定程度利用できるものだと考える。

(一) 中国語のストレスについて

中国語のストレスの特徴及びストレスの型については、趙元任氏の考え方がこれまで多くの学者の支持を得ている。趙氏はストレスの特徴については、主

要なのは音域の拡大と時間の持続の長さであり、強さは二次的なものであると述べている。そして、ストレスの型については、(1)「普通重音」(2)「特强重音」(3)「轻音」と「轻声」に分類し、(1)については、その間に停頓の無い一連の音節は語句や複合語を問わず、全ての音節の「轻重」には違いがある。一般的に、最後の音節が最も「重」であり、最初がそれに次ぎ、中間が最も「轻」であるとし、以下の例を挙げている。

例：「好¹人」，「注¹意」，「山¹海¹关」，「我¹没¹懂」，「东¹南¹西¹北」，
「人¹人¹都¹想¹去」



そして、(2)については、「特强重音」は「普通重音」とは異り、音域がわりと広く、時間がわりと長く、しばしば音にも強さが加わる。例えば、「黄¹种¹强¹」という名前は、本来「普通重音」であるが、もしある人が「黄」を「王」と聞きまちがえそれを言い改める時、「不是¹王种强，是¹黄种强。」と言い、ストレスは対比される音節に移り、「普通重音」よりも更に強いと述べている。⁽²⁾

一方、最近の研究では語句ストレスと文ストレスに分け、語句ストレスでは二音節、三音節、四音節の語句に対して趙元任氏の(1)普通重音を追認する研究が多い。

語句ストレスの中に趙元任氏の「普通重音」と「特强重音」の二種類があるとするものに顔景助・林茂灿(1988)がある。この論文では、三字の組合せによる語句の音声実験の結果、二種類のストレスがあり、ひとつが「正常重音」でもうひとつが「加强重音」であり、「正常重音」は「中轻重」という形式をとり、「加强重音」は最初の字、又は中間の字に現われるとし、この二種類のストレスの特徴の違いについても言及している。⁽³⁾

一方、文ストレスに関する研究は少いものの、馮隆(1985)は連続する言葉の流れの中での子音、母音、声調それぞれの時間的長さを測定し、それらの間の関係の解明を試みている。その中で馮氏は次のような実験を行っている。まず「我说的“×它和它×”通通没有意义」という文を設定し、「×」の部分に

21種類の子音と8種類の単母音からなる67種類の漢字を入れ（例えば「素它」と「它素」）、老、中、青それぞれ男女一名ずつ合計六名の北京出身者に読んでもらい、前の音節（素它的素）と後の音節（它素の素）の子音と母音の時間的長さを測定し、21種類の子音と8種類の単母音それぞれの平均値を算出している。そして、彼は、子音についてはどの子音も前音節（×它的×）の子音が長く、後音節（它×の×）の子音が短い。母音については、逆に、どの母音も後音節が長く、前音節が短いと決論づけ、そして、全ての平均値を次のように算出している。^[4]

“×它” 的 “它×”			
			
子音	母音	子音	母音
124	104	100	118 (全平均値 単位 ms)

これまでのストレス研究と教学方法の中で、筆者が特に参考にしたのが以上三氏の研究と北京語言学院で出版された『初级汉语课本(I)』及び『初级汉语课本 听力练习(I)』である。これから述べる筆者のストレスに対する考察と教学方法もこれらに負うところが大きい。

本稿のストレス教育に関する特徴は以下の三点に要約できる。

- 1 語句ストレスと文ストレスに分ける。
- 2 語句ストレスを語尾強調型と語頭強調型に分ける。
- 3 文ストレスでは焦点と対比について教える。

この章では、語句ストレスの二つの種類及び語句ストレスと文ストレスの関係について述べ、第二章で語句ストレスの教学方法、第三章で文ストレスの教学方法について述べる。

「汉语」という二音節の語句を取り上げてみよう。この二音節の語句のストレスのあり方は、次の(A)(B)(C)の三種類が想定できる。(A)は後の音節にスト

スがかかっている場合で、(B)は前の音節にストレスがかかっている場合、(C)はどちらにストレスがかかっているとも言えない場合である。実際に発音される場合もこの三種類がありえる。(____線部がストレスのかかる位置を示す)

(A) 漢 語

(B) 漢 語

(C) 漢 語

(C)は発音教育において一般的に練習されている型であり、(C)にストレスがかかる場合に、(A)と(B)の型があると考えればよく、(C)の型はストレス教育から除外する。本稿では語尾にストレスのかかる(A)の型を語尾強調型又は語尾型と呼び、語頭にストレスのかかる(B)の型を語頭強調型又は語頭型と呼ぶ。

ストレスの特徴は、(A)の語尾型と(B)の語頭型では異なる。語尾型のストレスの特徴は後の音節の主母音が長く発音されるのに対して、語頭型のストレスの特徴は最初の音節の子音部分の方が強くそして長く発音されることである。

	漢	語	学	校
(A) 語尾型	<u>hàn</u>	<u>yǔ</u>	xué	<u>xiào</u>
(B) 語頭型	<u>hàn</u>	yǔ	<u>xué</u>	xiào

一方、文ストレスを考えてみよう。文ストレスで重要なことが二つある。ひとつは同じ文の中でストレスのかかる位置が異なるということである。例えば、「他学习汉语。」という文を取り上げた場合、ストレスのかかる部分は下の例のように三通り存在する。(____線がストレスのかかる部分を示す)

例1 他学习汉语。

a 他学习汉语。

b 他学习汉语。

c 他学习汉语。

もうひとつは、上の例 1c 「他学习汉语。」を取り上げた場合、ストレスの

かかり方は二種類が存在する。下の例2のように「汉语」の後の音節が強くなるaの場合と、「汉语」の前の音節が強くなるbの場合がある。ストレスのかかっている部分だけを取り出して観察すると、aが語句ストレスで分類した語尾型であり、bが語頭型である。（____線の下の・印が語尾型か語頭型かを示す）

例2 他学习汉语。

a 他学习汉语。

b 他学习汉语。

上に挙げた例1のa、b、cの違い及び2のa、bの違いは話し手が置かれている言語環境、つまり文脈や場面を除外して考えることはできない。

まず、1のa、b、cの違いは、話し手と聞き手の置かれている場面を考える必要がある。次のように、（ ）の中の質問に対して答える場合にストレスのかかる部分が異ってくるのである。

例1' a 他学习汉语。（谁学习汉语？）

b 他学习汉语。（他学习汉语吗？）

c 他学习汉语。（他学习什么？）

そして、2のa、bの違いは次のような場面や文脈の違いによって生じてくる。

例2' a 他学习汉语。（他学习什么？）

b 他学习汉语，还是学习英语？

文ストレスでは、例1'のように文中の一部の語句にストレスがかけられるわけであるが、ある語句にストレスがかかる場合、例2'のように、それが何らかのルールに従いaとbの二つのタイプに、結局は語尾型と語頭型という語句ストレスの二つの型に分かれてしまうのだと考えられる。二音節の語句はストレスのあり方がこの二種類に限られているからである。1' bの例「他学习汉语。」も「学习」にストレスをかける場合は「他学习汉语。」というように語頭型に

ならざるをえない。

このように文ストレスの中にも必ず語句ストレスの二つの型が現われ、文ストレスも語句ストレスを通じて実現されているといえることができる。そしてこのことは、逆に考えると、語句だけが取り出され中国人によって発音された場合は、文ストレスがその中に反映されていると考えることができる。

- (A) 漢 語 (你学习什么?)
- (B) 汉 語 (你学习汉语, 还是英语?)
- (C) 汉 語 (文ストレスがかかっていない場合)

以上、二音節の語句を使って考察したが、三音節、四音節の語句、さらには一音節の語句の場合にも状況は同じだと言える。

三音節の語句の場合、次の例のように、a は語尾型となり、b は語頭型となる。

- 例 3 a 他叫黄种强。(他叫什么名字?)
 b 这是黄种强的书。(这是谁的书?)

四音節の語句の場合も、次の例のように、a は語尾型となり、b は語頭型となる。

- 例 4 a 我去北京大学。(你去哪儿?)
 b 我去清华大学, 他去北京大学。

一音節の語句の場合は、子音と母音に分けストレスの特徴を考慮に入れ観察すると、下の例 5 のように、「他(ta)」は a が母音の長い語尾型 (ta) となり、b が子音の強い語頭型 (ta) になる。

- 例 5 a 我喜欢他 (ta)。(你喜欢谁?)
 b 他 (ta) 学习汉语。(谁学习汉语?)

三音節、四音節の語句を取り上げた場合、大多数が語尾型か語頭型であるが、中間にストレスがかかる場合が無いわけではない。中間にストレスがかかる場

合には次の三種類がある。aは語句の一部のみが強調される場合である。bは語句の切り方による場合で、目的語の名詞部分が語頭型だと考えるべきであろう。cは語句の一部に軽声が入って来ている場合である。これらは別途に説明すれば良い。

例6 a 三月一号

b 喝啤酒 → 喝 啤 酒
 □ □

c 小姑娘 → xiǎogūniáng

中国語のストレスの特徴は、語尾強調型と語頭強調型の二種類の語句ストレスの中に凝縮されている。したがって、教学上はまず語句ストレスを通じて中国語ストレスの特徴を理解させ、ある程度その発声方法を習得し、文ストレスの学習に進んで行くのが教学の順序としては適切だと考える。そして文ストレスの学習では、どのような条件のもとで、文のどの部分にストレスがかかるのか、そしてそのストレスの型は語尾強調型なのか語頭強調型なのかを理解しそれを習得するのが理想とされる。

(二) 中国語の語句ストレス

中国語の語句ストレスをストレスの型と特徴により、(A) 語尾強調型（又は語尾型と呼ぶ）と (B) 語頭強調型（又は語頭型と呼ぶ）に分類する。語尾型というのは、汉语 中国话 北京大学のように、二音節、三音節、四音節の語句で語尾が強く発音されるものを指し、趙元任氏の「普通重音」、顔景助・林茂灿氏の「正常重音」に相当するものである。語頭型というのは、汉语 中国话 北京大学のように、二音節、三音節、四音節の語句で語頭が強く発音される場合を指し、趙元任氏の「特加重音」、顔景助・林茂灿氏の「加重重音」は一般的にこれに相当する場合が多い。両氏のこれらのストレスは一般的に「対比重音」と言われているもので、「対比重音」は語尾にストレスがかかる場合もあ

る。このような場合、筆者の語句ストレスの分類では語尾型に入れる。

今天是星期三，还是星期四？

星期四。

語句ストレスの一般的特徴として、多くの学者により、(1)長さ(2)音域(3)強さの三点が指摘されているが、語尾型と語頭型ではこの三つのあり方が異なる。その違いについては、以下のそれぞれの項で説明する。

又、語句ストレスという場合、どの範囲を語句として考えるのかという問題がある。語句ストレスという用語は使われていないが、顔景助・林茂灿氏の「正常重音」は単語及び連語を含めて考え、趙元任氏の「普通重音」は文段階まで含んでいる。本稿では、単語及び複合語の中で名詞だけに限定した。理由は三点ある。ひとつは初級学習者を対象とするため単純なものが良いためである。もうひとつは、連語の場合は単語以上に文ストレスの側からの説明が必要となるが、文ストレスの研究がまだ不十分なためである。三つ目は、名詞だけでも、中国語の語句ストレスの特徴をある程度教えることができるためである。

(A) 語尾強調型（語尾型）

語尾型は中国語のストレスの核心だと言えるが、日本語を母語とする学習者には特に難しい。日本語の場合、語句の終りあるいは文中文末の音の切れ目では、母音が弱くなったり脱落したりする傾向が強く、一般的に言って、日本人は語句の終りにストレスをかけるのが苦手だからである。

(1) ストレスの特徴と表記方法

語尾型のストレスの特徴は第一に長さにある。最後の音節の母音が長くなるのが特徴である。

mín zú suàn shù
民 族 算 数

注意しなければならないのは、複合母音の場合である。母音の中でもストレスの乗る部分は主母音である。次の例のように、複合母音 iao のうちストレスが乗るのは主母音 a の上である。日本人は一番後の o の音が延ばしやすいので特に注意する必要がある。

xué xiào ○ à
学 校 × ò

第二の特徴は音域である。しかし、これは上に述べた第一の特徴を理解すれば、難しいことではない。主母音が声調とともに長く発音されるので、二声の場合は上に向って、三声の場合は下に向って、三声の場合は上下に音域が広がる。

第三に、強さに関しては考慮する必要がない。長く延ばされた音は聴覚的には強さとなって聞きとれる。

このストレスの特徴はスペイン語や英語のアクセント（長さ、ピッチ＝高さ、強さ）の出し方と似ている部分がある。例えば、スペイン語の場合、一般的に後から二番目の母音にアクセントがかかり、その母音を長く高く発音するのがポイントである。意味の無い語句でもそのように発音するとスペイン語らしく聞こえる。

señorita akasatana

語尾強調型に関してはこれまでかなりの研究がある。その中で教学上ストレスの強さをどう表記するのかという問題がある。表記方法を、趙氏は記号を用い、徐世栄氏は漢字を用い^[5]、『实用汉语课本』は数字を用いている^[6]。

例 「山 海 关」

1山 1海 1关 趙元任

中 次 轻 重 徐世荣

2 : 1 : 3 『实用汉语课本』

筆者は『实用汉语课本』の使っている 2 : 1 : 3 という数字を使って学習者に示すのが理解されやすいと考える。そして、この 2 : 1 : 3 というのは長さの違いであると言い切ると、学習者は理解しやすく練習の反応も早い。

教える順番は、三音節→四音節→二音節という順番が学習者にも教える側にも受け入れやすいと思う。三音節、四音節の語句ストレスのほうが二音節のものよりはっきりとしており理解しやすいし、二音節の語句は(b)の語頭型と関連づけて教えやすいからである。以下この順番で説明及び練習をして行く。

(2) 三音節の語句

三音節の語句は次のように 2 : 1 : 3 位の長さで発音するように練習する。

2 : 1 : 3

山 海 关

周 恩 来

しかし、2 : 1 : 3 の長さで発音するようと言っても、最初の 2 がどの位の長さなのか学習者には理解できないので、二音節目を軽く短く発音し、最後の音節を長く発音するようにと説明するのが学習者には理解しやすい。又、三音節目は声調の乗る母音、つまり主母音を長く発音するように学習者に注意することが必要である。

練習 (1—1)

2 : 1 : 3

1 山海关 shān hǎi guān

2 西班牙 xī bān yá

3 毛泽东 máo zé dōng

4	周恩来	zhōu ēn lái
5	图书馆	tú shū guǎn
6	汉语课	hàn yǔ kè
7	收音机	shōu yīn jī
8	星期日	xīng qī rì

(3) 四音節の語句

四音節の語句は、下のように 2 : 1 : 2(1) : 3 位の長さで発音するように練習する。2(1) というのは(1)という説もあるので併記した^[7]が、どちらを取るのかについてはここではこだわる必要は無い。重要なのは二音節目を軽く短く発音し、最後の音節の主母音を長く発音し練習することである。

練習 (1—2)

		2 : 1 : 2(1) : 3
1	东南西北	dōng nán xī běi
2	马来西亚	mǎ lái xī yà
3	北京大学	běi jīng dà xué
4	外语学院	wài yǔ xué yuàn
5	人民剧场	rén mín jù chǎng
6	北海公园	běi hǎi gōng yuán
7	排球比赛	pái qiú bǐ sài
8	中国画报	zhōng guó huà bào

(4) 二音節の語句

二音節の語句は次のように 2 : 3 位の長さで発音するように練習する。

練習 (1—3)

	2 : 3		2 : 3
1 学校	xué xiào	5 宿舍	sù shè
2 外语	wài yǔ	6 大学	dà xué
3 商店	shāng diàn	7 汽车	qì chē
4 邮局	yóu jú	8 汉语	hàn yǔ

語句ストレスは単語に個有のアクセントとは異なる。音節の連続の中での語調と考えたほうが良い。そのために次のような練習も有効性がある。

練習 (1—4)

(a)	二音節	三音節	四音節
	2 : 3	2 : 1 : 3	2 : 1 : 2 : 3

1	星期	星期日	上星期日
2	二十	二十五	二十五号
3	十三	三十一	三十一号

(b) 同じ音節のくり返し練習

4	一二, 三四, 五六, 七八, 九十
5	一二三, 三四五, 五六七, 七八九
6	一二三四, 三四五六, 五六七八

(c) 三音節と四音節のくり返し (電話番号を想定して)

7	三二七, 六四二九
8	九九六, 四七四八

(B) 語頭強調型 (語頭型)

これまでの中国語ストレスの研究又は教学で語頭強調型又は語頭型という用語が使われているわけではない。ここで言う語頭強調型というのは、一般的に

使われている「対比重音」が大体これに相当する。中国語の語句構成の特徴によるものであるが、単語を区別する要素は語句の前に位置している。したがって「対比重音」は語句の前の部分にかけられるのが一般的であり、しかも最初の音節が最も強くなる。

二音節		汉语	旦语
三音節	a	中 <u>文</u> 书	日 <u>文</u> 书
	b	上 <u>星</u> 期	下 <u>星</u> 期
四音節	a	北 <u>海</u> 公园	中 <u>山</u> 公园
	b	上 <u>星</u> 期日	下 <u>星</u> 期日
	c	西 <u>班</u> 牙语	阿 <u>拉</u> 伯语

しかし、語頭型になるものは「対比重音」だけとは限らない。文ストレスで述べる焦点の場合にも、語頭型に相当するものがある。「対比」と「焦点」については文ストレスで取り上げる。ここでは、「対比重音」を語頭型の典型としてとらえ、語句の中で語頭型ストレスの練習を行うのが目的である。

(1) ストレスの特徴と表記方法

語頭型のストレスの特徴は、最初の音節、特にその中の語頭に相当する部分が強く長く発音されるのが極立った特徴である。そして語頭に位置するのは子音の場合が母音の場合より多く、子音の場合に特にその強さが顕著となり、子音部分が相対的に母音部分より長くなる。

学習者に説明する場合は、子音だけを強く長く発音するというよりも、むしろ子音と母音部分の最初の母音を合わせて強く長く発音するようにと説明するほうが実際のストレスに近くなる。子音と最初の母音を合わせて強く長く発音すると、子音の長さも自然に長くなる。このようなストレスのかけ方は日本語を母語とする学習者にとってそう難しいものではない。

汉 语 hàn yǔ

电 车 diàn chē

表記方法は、次のように語句の中で対比される部分を____線で示す。そして、三・四音節の語句で____線部が複数の音節になる場合は、語頭に・印を加え語頭型であることを示す。____線は意味を対比して区別するためと、後述するように発声方法の特徴を示す役割もある。

二音節	三音節	四音節
汉语	<u>上星期</u>	<u>上星期日</u>
	<u>中</u> 文书	<u>北</u> 海公园
		<u>西</u> 班牙语

(2) 二音節の語句

語尾型の場合、長さを2：3位の割合で発音したが、語頭型の場合は、強さと長さを合わせて3：2位の割合で発音するようにする。そして、前音節部の強さも、子音と最初の母音を合わせて強く発音するように練習する。下の練習問題は、語頭型の練習であるが、語尾型の練習も可能である。合わせて練習し、語頭型と語尾型の違いを把握するようにする。

練習 (1—5)

- | | | |
|---|------------|------------|
| 1 | 汉语 hàn yǔ | 旦语 rì yǔ |
| 2 | 火车 huǒ chē | 汽车 qì chē |
| 3 | 排球 pái qiú | 籃球 lán qiú |
| 4 | 钢笔 gāng bǐ | 铅笔 qiān bǐ |
| 5 | 啤酒 pí jiǔ | 白酒 bái jiǔ |

(3) 三音節の語句

三音節の語句の場合、語句構成の違いにより語句全体の発声の仕方も異な

る。(a) 2・1 型と (b) 1・2 型の二種類がある。

(a) 2・1 型

最初の二音節を一気に発音するようにする。その際、語頭を強く、二音節目は軽く付け加える感じで発音する。

例 中文書 英文書

(b) 1・2 型

最初の一音節の語頭を強く長く発音するようにする。

例 上星期 下星期

練習 (1—6)

- (a) 1 汉语课 hàn yǔ kè 体育课 tǐ yù kè
 2 录音机 lù yīn jī 电视机 diàn shì jī
 3 乒乓球 pīng pāng qiú 羽毛球 yǔ máo qiú
 4 国庆节 guó qīng jié 中秋节 zhōng qiū jié
- (b) 1 上星期 shàng xīng qī 下星期 xià xīng qī
 2 男老师 nán lǎo shī 女老师 nǚ lǎo shī
 3 一年级 yī nián jí 二年级 èr nián jí
 4 红铅笔 hóng qiān bǐ 蓝铅笔 lán qiān bǐ

(4) 四音節の語句

四音節の語句の場合も、語句構成の違いにより、語句全体の発声の仕方が異なる。次の三種類がある。

(a) 2・2 型

語頭を強く、二音節目は軽く付け加える感じで、____線部を一気に発音するようにする。

例 北海公園 中山公園

(b) 1・3 型

最初の一音節の語頭を強く長く発音する。

例 上星期日 下星期日

(c) 3・1 型

語頭を強く、二音節目三音節目を軽く、____線部を一気に発音するようにする。

例 西班牙語 阿拉伯語

練習 (1—7)

- (a) 1 北海公園 bēi hǎi gōng yuán 中山公園 zhōng shān gōng yuán
 2 北京大学 běi jīng dà xué 南开大学 nán kāi dà xué
 3 中国地图 zhōng guó dì tú 世界地图 shì jiè dì tú
 4 明天下午 míng tiān xià wǔ 今天下午 jīn tiān xià wǔ
- (b) 1 上星期日 shàng xīng qī rì 下星期日 xià xīng qī rì
 2 新图书馆 xīn tú shū guǎn 旧图书馆 jiù tú shū guǎn
 3 三本辞典 sān běn cí diǎn 四本辞典 sì běn cí diǎn
 4 十月一号 shí yuè yī hào 九月一号 jiǔ yuè yī hào
- (c) 1 西班牙语 xī bān yá yǔ 阿拉伯语 ā lā bō yǔ
 2 张家口市 zhāng jiā kǒu shì 哈尔滨市 hā ér bīn shì

(三) 中国語の文ストレス

中国語のストレスの研究は、これまで主として語句ストレスの研究に向けられ、文ストレスの研究は充分にまだ成果が生れていない。中国語では「句重音(文ストレス)」という用語より「逻辑重音(ロジックストレス)」あるいは「意群重音(意味グループによるストレス)」という用語がこれまでは一般的である。したがって、文ストレスとは何なのかという説明が必要であろう。

話し手が置かれている言語環境、すなわち場面や文脈との関係により、文の中のある部分にストレスがかけられる。これが文ストレスだと考える。そして、そのある部分とは語句から構成されており、その語句を観察してみると、文ストレスも語句ストレスの二つの型、つまり語尾型と語頭型により実現されていることが観察できる。

したがって、文ストレスの研究そして教学も、どのような条件のもとで文のどの部分にストレスがかけられるのか、そしてその部分のストレスの型は語尾型なのか語頭型なのかを明らかにすることが重要である。

先行した研究が少ないため、教学に活せるものはまだ少ない。ここでは焦点と対比について取り上げる。

(A) 焦点

これまでの中国語のストレス分野の研究で「焦点」という用語は使われていない。本稿では次のように考えて「焦点」という用語を用いた。基礎教育においては、単純な質問と応答によって文の型や簡単な会話を学習する方法が普遍的に採用されている。そして、これら単純な質問に対する答えは、ほぼ一カ所にストレスがかけられる。その話し手の環境ではその部分が最も重要な情報、つまり情報上の焦点として聞き手に伝えられるからである。ここでは、このような文ストレスを焦点と呼ぶことにする。

(1) 疑問代名詞と焦点

疑問代名詞が使われている疑問文に対する答えの文は、疑問代名詞に相当する部分が最も重要な情報、すなわち焦点となり、文の中でその部分にストレスがかかる。次の例文では____線部にストレスがかかる。

今天晚上我去看电影。(今天晚上你去看什么?)

今天晚上我去看电影。(今天晚上谁去看电影?)

我今天晚上去看电影。(你什么时候去看电影?)

そして、同じ疑問代名詞が使われていても、その疑問代名詞がどのような文の構成成分として使われているのか、あるいは文中で占める位置との関係で、語尾型となるのか、語頭型になるのか異なる。例えば、疑問代名詞「誰」を取り上げてみると、目的語、連体修飾語、主体者によって違いがある。目的語の位置にくる場合は語尾型となり、連体修飾語及び主体者の位置に来る場合は語頭型となる。

(a) 目的語→語尾型

你去看谁? 我去看田中 (王大明)。

(b) 連体修飾語→語頭型

这是谁的书? 这是田中 (王大明) 的书。

(c) 主体者→語頭型

谁去看电影? 田中 (王大明) 去看电影。

(2) 焦点と目的語

焦点が目的語の位置にきた場合、その目的語に相当する語句のストレスの型は語尾型となる。一方、目的語というのは動詞+目的語という動詞を含めた一連の語句の最後に位置する。このような観点から考えると、連語も語句ストレスの延長線上で考えることが可能であり、動賓連語にも語尾型が存在することになる。

(a) 什么

你买什么? 我买邮票 (参考书 人民日报)。

(b) 哪儿

你去哪儿? 我去书店 (图书馆 北京大学)。

(c) 谁

你去看谁? 我去看田中 (王大明 田中一郎)。

練習（2—1）

- 1 你买什么？ 我买____。
书 邮票 参考书 人民日报
糖 钢笔 练习本 中文小说
- 2 你看什么？ 我看____。
书 电影 日文书 中国画报
报 小说 英文书 英文杂志
- 3 你玩儿什么？ 我玩儿____。
球 象棋 扑克牌
- 4 你去哪儿？ 我去____。
书店 图书馆 中山公园
商店 动物园 北京大学
- 5 你去看谁？ 我去看____。
田中 王大明 田中一郎
李建 张月华 中田幸子

(3) 焦点と修飾語

焦点が連体修飾語や連用修飾語の位置に来た場合、その語句のストレスの型は語頭型になる。一方修飾語というのは中心語を含めて考えると、一連の語句、つまり修飾語＋中心語という連語の語頭ということになり、語句ストレスの延長線上で考えることが可能である。

(a) 連体修飾語 谁

这是谁的书？ 那是田中（王大明）的书。

(b) 連用修飾語 什么时候

你什么时候看这本书？ 我下午（下星期 明天下午）看。

練習 (2-2)

- 1 这是谁的书？ 那是____的书。(語頭型)
 他 田中 王大明 田中一郎
 我 李建 张月华 中田幸子
- 2 他叫什么？ 他叫____。(語尾型)
 中田 王大明 田中一郎
 田中 张立明 中田幸一
- 3 你什么时候看这本书？ 我____看。(語頭型)
 下午 下星期 下星期日
 明天 星期日 明天下午

(4) 疑問助詞「吗」を使った疑問文と焦点

疑問助詞「吗」を使った疑問文に対する答えは、肯定の場合は述語のみに、否定の場合は「不」にストレスがかかる。何故ならば、これらの場合、肯定か否定かの意志又は判断のみが情報として重要な部分、すなわち焦点となるからである。そして、この場合は動賓連語の語頭型と考えることも可能である。

你看电影吗？ 我看电影。看电影。
 我不看电影。

練習 (2-3)

- 1 你去吗？ 我去。
 我不去。
- 2 你去图书馆吗？ 我去图书馆。
 我不去图书馆。
- 3 你看吗？ 我看。
 我不看。

- 4 你看电视吗？ 我看电视。
我不看电视。

(B) 対比

文ストレスで焦点とともに重要なのが対比である。この対比については早くから趙元任氏等により言及されているし、『初级汉语课本』でも取り入れている。

ストレスは語句の中の対比されている部分に強くかかる。中国語の語句構成の特徴により、語頭型になることが多いが一部そうでない場合もある。

你去，还是他去？ 他去。
你学习英语，还是学习日语？ 我学习日语。
今天是星期五，还是星期六？ 星期六。

練習（2—4）

- 1 你去，还是他去？ 他去。
- 2 你买钢笔，还是买铅笔？ 我买铅笔。
- 3 他是中文系，我是经济系。
- 4 你喝啤酒，还是喝葡萄酒？ 喝葡萄酒。
- 5 我去北京大学，他去南开大学。
- 6 今天是星期五，还是星期六？ 星期六。
- 7 今天是三月七号，还是三月八号？ 八号。

おわりに

本稿は大学の第二外国語の授業および専門学校で教年間行って来たストレス教育の方法を執筆にあたって再構築したものである。従って教学の対象者を日本語を母語とする初級の中国語学習者（主として大学の第二外国語で週二回学

習する一年生)に設定しており、語句や文も学習者の理解しやすいものを選んだ。

初級者を対象とする以上、導入の時期が重要である。語句ストレスについては、発音教育の最後の段階で説明と練習を行い、文ストレスの説明と練習は後期に於て導入するのが適切だと考える。

注(1)(2) 趙元任 (1980) p. 20

(3) 顔景助・林茂灿 (1988) p. 227

(4) 馮隆 (1985) p. 133-137, p. 143-146, p. 157-162

(5) 徐世榮 (1983) p. 47-48

(6) 北京語言学院 (1985) 第二卷 p. 119-120

(7) 趙元任氏は「東」南「西」北」と表記し、2:1:1:3 に相当し、徐世榮氏は「中:次軽:中:重」と表記し、2:1:2:3 に相当する。『实用汉语课本』は 1.5:0.5:1:3 としているが、教学上繁雑すぎる。

参考文献

北京語言学院 (1985)『实用汉语课本』(I)・(II) 商务印书馆

北京語言学院来華留学生三系 (1986)『初级汉语课本』(I),『初级汉语课本 听力练习』(I) 北京語言学院出版社

趙元任 (1980)『中国話の文法』丁邦新訳 中文大学出版社

馮隆 (1985)「北京話語流中声韻調の長さ」『北京語音実験録』林燾・王理嘉等著 北京大学出版社

顔景助・林茂灿 (1988)「北京話三字組重音の声学表現」『方言』1988—3

徐世榮 (1983)『北京話声調練習』文字改革出版社

林燾・王理嘉等 (1985)『北京語音実験録』北京大学出版社

李明・石佩雯 (1986)『汉语普通话语音辨正』北京語言学院出版社

吳宗濟・林茂灿 (1989)『实验語音学概要』高等教育出版社

林燾 (1990)『语音探索集稿』北京語言学院出版社

久野暉 (1978)『談話の文法』大修館

松本昭 (1960)「北京語アクセントに関する一考察」『中国語学』100

松本昭 (1961)「再び北京語アクセントについて」『中国語学』110

平山久雄 (1961)「北京・吳祖方言に於けるアクセント素について(上)」『中国語学』110

平山久雄 (1961)「北京・吳祖方言に於けるアクセント素について(下)」『中国語学』111

陳文芷 (1981)「談重讀」『中国語学』228

平井勝利 (1983)「中国語の単語ストレスアクセント試論」『伊地智善繼・辻本春彦両教授退官記念 中国語学・文学論集』東方書店

- 徐世榮（1956）「双音綴詞的重音規律」『中国語文』1956—2
T・P ザドエンコ（1958）「汉语弱读音節和轻声の实验研究」『中国語文』1958—12
N・A スペーシニエフ（1959）「現代汉语音節重音の声学本质」『中国語文』1959—1
徐世榮（1961）「意群重音和語法的关系」『中国語文』1961—5
历為民（1981）「试論轻声和重音」『中国語文』1981—1
殷作炎（1982）「关于普通话双音常用詞輕重音的初步考察」『中国語文』1982—3
林茂燦・顔景助・孫國華（1984）「北京話兩字組正常重音的初步实验」『方言』1984—1
林茂燦・顔景助（1990）「普通话轻声与輕重音」『語言教學与研究』1990—3

〈付記〉

中国語学会第40回全国大会（於京都産業大学1990年10月14日）において、「中国語のストレス（重音）教育について」と題して口頭発表を行った。本稿はその発表をもとに改定を加え、題名を改めたものである。